

# 全段連 環境自主行動計画（温暖化対策）

## 2012 年度実績フォローアップ調査結果及び計画年度総括

2013 年 8 月 19 日

全国段ボール工業組合連合会

全国段ボール工業組合連合会は、環境自主行動計画に対する進捗状況を把握するため、本年 4 月に自主行動計画参加企業に対して 2012 年度実績の調査を実施しましたので、その結果を報告致します。

なお、2012 年度を以って 2009 年度～2012 年度の計画期間が終了し、CO<sub>2</sub>削減目標 6.5% に対し実績 13.1%削減となり目標を達成致しました。

### <計画>

- ・目標：2006 年度～2008 年度の 3 年間平均に対し、2009 年度～2012 年度の 4 年間平均で CO<sub>2</sub> 総排出量を 6.5%削減する。
- ・自主行動計画参加企業数：33 社
- ・全国段ボール生産量に対するカバー率：64.7%（2008 年度）

### <実績>

		基準年度	計 画	実 績				
		2006～2008 年度平均	2009～2012 年度平均 (基準年度比)	2009 年度 (基準年度比)	2010 年度 (基準年度比)	2011 年度 (基準年度比)	2012 年度 (基準年度比)	2009～2012 年度平均 (基準年度比)
貼合生産量 (33 社)	百万㎡ /年	8,862	8,514 (96.8%)	8,313 (93.8%)	8,524 (96.2%)	8,526 (96.2%)	8,505 (96.0%)	8,467 (95.5%)
CO <sub>2</sub> 総排出量	t-CO <sub>2</sub> /年	549,809	514,071 (93.5%)	490,677 (89.2%)	478,982 (87.1%)	454,906 (82.7%)	485,630 (88.3%)	477,549 (86.9%)
CO <sub>2</sub> 削減量※1	t-CO <sub>2</sub> /年	—	35,738	59,132	70,827	94,903	64,179	72,260
CO <sub>2</sub> 削減率	%	—	6.5%	10.8%	12.9%	17.3%	11.7%	13.1%
CO <sub>2</sub> 原単位※2	kg-CO <sub>2</sub> /千㎡	62.04	60.38 (97.3%)	59.03 (95.1%)	56.19 (90.6%)	53.35 (86.0%)	57.10 (92.0%)	56.40 (90.9%)

※：一部過去の数値訂正により、基準年度、計画、実績の数値を修正している。

※1：基準年度に対する計画年度毎の削減量。

※2：CO<sub>2</sub> 総排出量を貼合生産量で割った値。

### <2012 年度実績の調査結果について>

2012 年度の参加 33 社の貼合生産量は前年度より 21 百万㎡ (0.7%) 減少したが、CO<sub>2</sub> 総排出量は 30,724t (6.8%) 増加し、その結果、原単位は前年度より 7.0%増となった。CO<sub>2</sub> 総排出量が増加したのは原発停止により 2011 年の電力の炭素排出係数が上昇したためである。この係数を前年と同じ値とすると、CO<sub>2</sub> 総排出量は 446,520 t となり、前年度より 8,386 t (1.8%) 減少しており、実質的には参加企業の努力によりさらなる CO<sub>2</sub> 排出量の削減ができた。

## <自主行動計画期間（2009年度～2012年度）実績の総括>

基準年度となる2006年度～2008年度の3年間平均に対し、2009年度～2012年度の4年間平均でCO<sub>2</sub>総排出量を6.5%削減する目標に対し、実績は13.1%<sup>(注)</sup>削減となり目標を達成した。また、原単位では目標2.7%削減に対し、実績は9.1%<sup>(注)</sup>削減となった。

CO<sub>2</sub>排出量削減に寄与した取組みは、ボイラ燃料の重油からCO<sub>2</sub>排出量が少ない都市ガスやLNGへの転換、エコ照明の導入、コンプレッサーのインバータ化や集約化、省エネタイプの各種機器導入など設備的なものに加えて、生産性向上やきめ細やかな節電等が挙げられる。特にボイラの燃料転換については、33社合計における重油と都市ガスの2012年度使用量の基準年度比は、重油57%、都市ガス198%と、重油がほぼ半減したのに対し都市ガスは倍増しており、CO<sub>2</sub>排出量削減に大きく寄与した。

なお、上述のように全体としては目標を達成しているが、参加企業の削減実績を原単位で評価すると、約3分の1の企業が原単位の削減が出来ない残念な結果となった。これらの企業については、今後、取組み強化を図らねばならないと考えている。

以上のように、目標を達成することは出来たが、段ボール業界はこれに満足することなく、地球温暖化防止への対策を講じることは業界の責務と踏まえ、引き続き2013年度～2016年度の4年間を第二次計画期間としてCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んで行く。

(注)2012年度実績の算定に用いた電力の炭素排出係数を原発停止の影響がない2010年度の値を用い算定すると、CO<sub>2</sub>総排出量は14.9%、原単位は10.9%の削減となる。

以上